

令和元年

Y 8 サミット創快横手市議会 会 議 録

自 令和元年11月14日

至 令和元年11月14日

Y 8 サミット創快横手市議会

令和元年Y 8 サミット創快横手市議会会議録目次

11月14日（木曜日）

○議事日程（第1号）	1
○会議に付した案件	1
○出席議員	1
○説明のため出席した者	2
○開 会	4
・議席の指定について	4
・議長の選出について	5
・会議録署名議員の指名について	5
・会期の決定について	5
・Y 8 提案	6
横手南中学校（高橋海音議員・山本航陽議員・佐藤広菜議員）	6
横手北中学校（松田康永議員・佐藤岳人議員・山石真智議員）	8
増田中学校（伊藤結姫乃議員・高橋優議員・三浦怜生議員）	11
平鹿中学校（戸田響議員・小杉光議員・川崎知己議員）	14
横手明峰中学校（谷口真子議員・佐々木柊平議員・上田あい議員）	16
十文字中学校（佐藤琢磨議員・糸井颯太議員・藤川美涼議員）	19
横手清陵学院中学校（田中唯議員・佐藤颯太議員・半田日向議員）	22
○閉 会	24
○署名議員	25

令和元年 11 月 14 日（木曜日）

（第 1 号）

平令和元年Y 8 サミット創快横手市議会会議録

議事日程（第1号）

令和元年11月14日（木曜日）午後1時11分開会

- 第 1 議席の指定について
- 第 2 議長の選出について
- 第 3 会議録署名議員の指名について
- 第 4 会期の決定について
- 第 5 Y 8 提案第1号 冬のスポーツ・文化行事について
(横手南中学校からの提案)
- 第 6 Y 8 提案第2号 廃校を活用した学び・運動・文化の総合交流施設について
(横手北中学校からの提案)
- 第 7 Y 8 提案第3号 少子高齢化に伴う伝統文化の継承者不足について
(増田中学校からの提案)
- 第 8 Y 8 提案第4号 フォトコンテストのInstagram活用について
(平鹿中学校からの提案)
- 第 9 Y 8 提案第5号 横手市移住推進大作戦について
(横手明峰中学校からの提案)
- 第10 Y 8 提案第6号 十文字地区新庁舎及び廃校の有効活用による地域活性化と観光客の呼び込みに
ついて
(十文字中学校からの提案)
- 第11 Y 8 提案第7号 次世代へと繋がる地域づくりについて
(横手清陵学院中学校からの提案)

本日の会議に付した案件

議事日程第1号に同じ

出席議員（21名）

2番 谷 口 真 子
5番 高 橋 海 音
7番 佐 藤 広 菜
9番 上 田 あ い

3番 戸 田 響
6番 山 本 航 陽
8番 佐々木 柊 平
10番 小 杉 光

1 1 番	川 崎 知 己	1 2 番	田 中 唯
1 3 番	佐 藤 颯 太	1 4 番	半 田 日 向
1 5 番	伊 藤 結 姫 乃	1 6 番	高 橋 優
1 7 番	三 浦 怜 生	1 8 番	佐 藤 琢 磨
1 9 番	糸 井 颯 太	2 0 番	藤 川 美 涼
2 1 番	松 田 康 永	2 2 番	佐 藤 岳 人
2 3 番	山 石 真 智		

説明のため出席した者（31名）

市長	高 橋 大	副市長	石 山 清 和
副市長	藤 本 和 宏	教育長	伊 藤 孝 俊
総務企画部長	村 田 清 和	財務部長	佐 藤 勉
まちづくり 推進部長	加賀谷 秀 昭	市民福祉部長	竹 原 信 寿
農林部長	柿 崎 浩 之	商工観光部長	佐々木 公 仁
建設部長	池 田 智	上下水道部長	木 村 忠
教育総務部長	栗 田 律 子	教育指導部長	木 村 司
消防長	菅 谷 和 明	市立横手病院 事務局長	浮 嶋 優 子
市立大森病院 事務局長	村 上 伸 夫	総務課長	佐 藤 信
秘書広報課長	辻 正 憲	人事課長	菊 地 浩 昭
経営企画課長	小 玉 幸 平	財政課長	小 松 忠 昭
社会福祉課長	播 磨 康 博	横手地域局長	山 本 信 夫
増田地域局長	阿 部 隆 雄	平鹿地域局長	柴 田 浩 美
雄物川地域局長	佐々木 義 和	大森地域局長	佐 藤 育 三
十文字地域局長	和 泉 久 夫	山内地域局長	中 村 広 幸
大雄地域局長	戸 田 勝 己		

横手市教育委員会出席者

教育指導課長	岩 野 玲 子	教育指導課 課長代理	岡 固 敦
教育指導課主査	高 橋 秀 彰	教育指導課主査	一 関 大 輔

横手市議会出席者

議長 播磨博一

議会事務局出席者

事務局 長	佐藤雅義	主 幹	菅原 ゆかり
議事調査係 主査	小松 淳	議事調査係 主査	大極 孝春
議事調査係 主査	菅原 義隆	総務係 副主査	横井 希望

◎開会及び開議の宣告

○佐藤雅義 議会事務局長 皆さん、こんにちは。

令和元年Y8サミット創快横手市議会の開会にあたり、議長が選出されるまでの間、議長の職務を行う臨時議長の選出を行います。地方自治法第107条の規定では、年長の議員が臨時議長の職務を行うことになっておりますが、皆さんは同年代でありますので、今回は、横手市議会の播磨博一議長に臨時議長をお願いいたします。播磨議長、よろしくお願いいたします。

○播磨博一 臨時議長 ただいまご紹介いただきました横手市議会議長の播磨でございます。

皆さんこんにちは。今日は、市内7中学校のY8の皆さん21人に、この議場においていただきました。先ほど、議長の方から任命書を手渡したわけですが、多分まだ緊張されているかなと、思いますけれども大丈夫です、頑張ってください。それから傍聴席においてになりました各中学校の生徒の皆さん、それから先生の皆さん、それから保護者の皆さん本当によろそおいいただきました。このような形でのY8サミット創快横手市議会が開催されることは、我々議会としても大変喜ばしいと思っております。今日は、よろしくお願いいたします。

先ほどお話の中にありましたように、今年で7年目になるわけですが、私も皆さんの今日の質問の内容を前もって読ませていただきました。最初始まった頃よりは、本当に横手市全体のことを考えた、あるいは横手の未来を考えた提案型の質問内容が沢山出てきたなというふうに感じております。これまでは議会の議員の皆様とも協議をされて、アドバイスも受けられて練りに練った今日の提案になるかと思いますので、その辺も期待しております。また答弁にあたられます、市長、あるいは教育長及び当局の皆様におかれましては、本当に丁寧な、そしてわかりやすく具体的な答弁を期待したいと思います。生徒の皆様におかれましては、今日の経験を自分だけのものとせず、学校に帰ったら同級生、あるいは後輩の皆さんにも十分にお伝えいただき、このY8サミットが益々発展できるよう、そして皆さんがこれから政治、あるいは市政に対して大きな興味を持っていけるような形で進んでもらえれば大変有り難いと思います。今日のこの時間、この後の時間をですね、本当に実り多きものになるように期待を申し上げまして激励の言葉といたします。

それでは座って説明させていただきます。

それでは臨時議長の職務を行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまから、令和元年Y8サミット創快横手市議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

◎議席の指定について

○播磨博一 臨時議長 日程第1、議席の指定を行います。

議席はただいま着席の議席といたします。

◎議長の選出について

○播磨博一 臨時議長 日程第2、議長の選出を行います。

議長は議員の中から議会の選挙により選ばれることになっておりますが、今回は指名推選の方法により行うことにいたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○播磨博一 臨時議長 ご異議なしと認めます。したがって、議長は指名推選の方法により行うことに決定をいたしました。

Y8サミット創快横手市議会では、前半と後半でそれぞれ1名の議長に議事進行を行っていただきますので、2名の推薦をお願いします。それでは、ご推薦願います。

15番、増田中学校 伊藤結姫乃議員。

○15番（増田中学校 伊藤結姫乃議員） 2番、横手明峰中学校 谷口真子議員。3番、平鹿中学校 戸田響議員の2名を推薦します。

○播磨博一 臨時議長 ただいま指名されました2番、横手明峰中学校 谷口真子議員、3番、平鹿中学校 戸田響議員、の2名を議長の当選人とすることにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○播磨博一 臨時議長 ご異議なしと認めます。したがって、ただいま指名されました2番、横手明峰中学校 谷口真子議員、3番、平鹿中学校 戸田響議員の2名が議長に当選をされました。

以上をもちまして、臨時議長の職務は終了いたしました。

前半は、2番、横手明峰中学校 谷口真子議員をお願いいたします。

谷口議長、議長席にお着き願います。

【播磨博一臨時議長 議長席を退き、谷口真子議長 議長席に着く】

○谷口真子 議長 スムーズな議会の進行をしたいと思います。よろしくお願いします。

◎会議録署名議員の指名について

○谷口真子 議長 日程第3、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は横手市議会会議規則第81条の規定を準用し、5番 横手南中学校 高橋海音議員、21番 横手北中学校 松田康永議員を議長が指名いたします。

◎会期の決定について

○谷口真子 議長 日程第4、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

Y8サミット創快横手市議会の会期は、本日1日といたしたいと思います。これにご異議ありません

か。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○谷口真子 議長 ご異議なしと認めます。したがって、会期は本日１日と決定いたしました。

◎Ｙ８提案（横手南中学校）

○谷口真子 議長 日程第５、Ｙ８提案第１号、「冬のスポーツ、文化、行事について」を議題といたします。

提案者より、説明を求めます。

◇横手南中学校（高橋海音議員・山本航陽議員・佐藤広菜議員）

○谷口真子 議長 ５番、横手南中学校 高橋海音議員、６番 山本航陽議員、７番佐藤広菜議員に発言を許可いたします。

５番 高橋海音議員、６番 山本航陽議員、７番 佐藤広菜議員。

○５番（横手南中学校 高橋海音議員） 例年、本校の中学２年生では、横手市内の事業所や施設で職場体験を行っています。その際、横手市で働く方々から「横手市で暮らし、働いて感じる課題」をアンケートしました。そこで共通して出てきた課題として、第一に「雪の害をもたらす厄介者であり、かまくらで代表される観光資源でもある雪」、第二に「進行する少子高齢化と地域の絆の希薄化」、第三に「横手市を訪れる人口である交流人口の増加から、横手市に暮らす定住人口の増加の必要」というものがありました。

これらの課題から、「冬に雪と親しむ行事を考えられないか。また、世代を超えて地域の絆を深め、他地域の人々にも雪や横手に魅力を感じてくれる企画はないのだろうか」との考えに至りました。

○６番（横手南中学校 山本航陽議員） そこで「冬の横手スポカルフェス」を開催してはどうでしょうか。「スポカル」とは「スポーツのスポ、文化すなわちカルチャーのカル」から取ったものです。横手市では昨年２月に赤坂総合公園で「雪中運動会」を企画したとお聞きしました。「かんじき１５メートル走」「スノーダンプリレー」「雪上フラッグ」などの競技に加え、小さいお子さん向けの「宝探し」を企画したとお聞きしました。これに加え「多くの雪を早く取り除こう！雪寄せ選手権」や「町内をキレイに！美しい雪寄せコンクール」、さらに「異世代間の交流をするカルタ・オセロ・将棋・囲碁」などの冬の屋内競技を加え、拡大してはどうでしょうか。

○７番（横手南中学校 佐藤広菜議員） 競技数には雪を利用できるものや、屋内レクリエーション、遊びも加えます。特に以前横手市を会場に開催されていた「スポーツＹＵＫＩＹＯＳＥ選手権」は遠く東京都からのチームも含めて横手市内外から１５０人の参加者があったと伺っております。交流人口拡大を目指す横手市としては、魅力的な企画となるのではないのでしょうか。併せて、地域の絆を深め、横手の雪

や冬に親しむことにつながると思います。

このように「雪中運動会」を規模拡大し、「冬の横手スポカルフェス」として開催する意義は大きいと思います。

以上の政策提案について、どのようにお考えでしょうか。ご意見をうかがいたいと思います。よろしくをお願いします。

○高橋大 市長 みなさんこんにちは。まず横手南中学校からは、冬のスポーツ、文化行事につきまして、まあ「スポカルフェス」という名称でもってですね、実現、実施についてのご提案がございました。答弁させていただきます。

現在、横手市におきましては、暮らしにうるおいを与えてくれる自然の恵みとして雪を積極的に受け入れ、雪を生かし、市と市民、事業所が一体となって快適なまちづくりを進め、魅力ある雪国を創ることを目的とした「横手市雪となかよく暮らす条例」を制定しております。この条例の中には、雪に関心の高い市民による「横手市雪となかよく暮らす条例に基づく市民委員会」の設置も定めており、例年「雪と親しむ日」を設定し、事業として「かんじきウォーキング」を開催してまいりました。昨年度は議員お話いただいたとおり、「雪中運動会」を開催し、「かんじき15メートル走」「スノーダンプリレー」「雪上フラッグ」などの競技を実施しております。また、当市の友好都市でございます厚木市の児童・生徒など40名の方々にも参加いただきまして、市民の皆様との交流を深めました。

今年度につきましては、秋田県の主催事業ではございますが、大森地域保呂羽地区において、市外からの参加者によるチーム制で高齢者宅などの間口除雪を行い、その出来栄を競いあい、その後昼食を食べながら住民と交流を深める雪かきイベントを予定しております。

議員の皆様からご提案のあった屋内での文化的種目を追加した全世代参加型事業「冬の横手スポカルフェス」につきましては、現在活動している伝統・文化振興を行っている各種団体、関係部署との連携が必要であると考えており、検討してまいります。

また、「横手市雪となかよく暮らす条例に基づく市民委員会」と情報を共有し、冬のイベントを通して雪と親しむとともに、冬季間における屋内スポーツの奨励も努め、世代間交流、地域間交流に繋がる魅力的な事業を実施、検討してまいります。以上でございます。

○谷口真子 議長 5番 高橋海音議員。

○5番（横手南中学校 高橋海音議員） 丁寧なご答弁、ありがとうございました。これからも僕たちは、横手市民の一員として地域の課題に真摯に向き合っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

○谷口真子 議長 これでY8提案第1号の議事を終わります。

◎Y8提案（横手北中学校）

○谷口真子 議長 次に日程第6、Y8提案第2号「廃校を活用した学び・運動・文化の総合交流施設に

ついて」を議題といたします。

提案者より、説明を求めます。

◇横手北中学校（松田康永議員・佐藤岳人議員・山石真智議員）

○谷口真子 議長 21 番 横手北中学校 松田康永議員、22 番 佐藤岳人議員、23 番 山石真智議員に発言を許可いたします。

21 番 松田康永議員、22 番 佐藤岳人議員、23 番 山石真智議員。

○21 番（横手北中学校 松田康永議員） 横手北中学校からは、「廃校を活用した学び・運動・文化の総合交流施設を新たにつくること」を提案したいと思います。

先日校内で、「将来も秋田に住みたいか」というアンケートをとった際、「秋田から出たい」と答えた人の理由は「秋田が嫌だから」ではなく、「秋田が住みにくいから」でした。そこで、この提案を実現することによって、廃校が活用され、さらには子育てがしやすくなるなど、幅広い世代の人が交流しやすくなると考えます。

それでは、詳しい提案内容に移ります。今回は、山内中学校をベースに考えました。初めに、施設の内容についてです。施設には大きく三つの設備を作ります。

一つ目は、プールを整備して、市民が使えるようにします。こちらの表をご覧ください。現在横手市で一般の方も利用できるプールは、雄物川町にある「雄物川温泉 えがおの丘」と、大森町にある「南部シルバーエリア」の二つのみです。私たち中学生は体育でプールの授業がなく、「泳ぐ」ということから遠のいています。さらに山内中学校のプールは 50m プールであるということも魅力の一つです。プールを整備して一般開放することで、私たち中学生が活用するだけでなく「スポーツ立市よこて」の発展にもつながると考えます。

○22 番（横手北中学校 佐藤岳人議員） 二つ目は、校舎を利用して習い事や自習スペース、地域住民の学びの場・憩いの場を作ります。自分のもっている知恵を若者に伝えたい地域の方や、勉強を教えられる方を募集すれば、幅広い世代が交流をもつことも期待できます。友人や地域の方と一緒に学ぶことで、横手の子どもたちの学力アップにもつながるかもしれません。廃校の教室を使うことで、子どもが遊ぶスペースや勉強できるスペースをつくることができ、子育てをしやすくなるのではないのでしょうか。

三つ目に、プールと同じく体育館を整備し、一般開放します。スポーツ少年団などのチームや、チームに所属していない人にも広く体育館を使ってもらい、「スポーツ立市よこて」を盛り上げ、市民の運動意欲向上にもつながられると思います。

○23 番（横手北中学校 山石真智議員） 次に、この提案を実現するために、私たち中学生や市民ができることについてです。それは活用する廃校の事前整備・清掃です。廃校を整備する際に、卒業生にも声をかけボランティアを集め、イベントの様に清掃します。県外から帰省してくる人のことを配慮し、お正月やお盆などに行うことで、普段会うことのできない、地元の仲間と久しぶりに会うことができる

いい機会になると思います。

こちらの表をご覧ください。横手市では学校の統廃合が進み、このように現在廃校となっている学校がたくさんありますが、保管施設のような活用のされ方が多く、中学生や市民が気軽に活用できる施設とはなっていません。山内中学校は平成 21 年度に校舎を一部改築しており、まだ十分活用できる状態です。さらに今後は、十文字中学校区の小学校の統廃合も行われるため、廃校となる学校は他にも出てきます。その校舎を利用して、横手をより住みやすい町にしたいのです。

以上が、横手北中学校からの、廃校を活用した学び・運動・文化の総合交流施設を新たにつくることに関する提案です。

○谷口真子 議長 市長。

○高橋大 市長 横手北中学校さんからは、廃校を活用した学び・運動・文化の総合交流施設につきまして、まあ 3 点ですね、ございました。答弁いたします。

廃校舎の利活用について、校内のアンケート調査結果からの提案をいただきありがとうございます。

三つの具体的な提案がございましたが、前段に当市の公共施設の運営に関する基本的な考えを説明してから、個別の提案への回答をさせていただきたいと思います。

横手市では、平成 28 年の 3 月に横手市財産経営推進計画を定めております。この計画は、一つ目として時代の変化に対応した公共サービスを、今後も継続的に実施すること、二つ目といたしまして人口減少時代の中でも持続可能な行政経営と地域社会の実現を図ること、そして三つ目といたしまして皆さん方のような将来世代に負担を先送りしないことを目的に、公共施設等の維持更新費用の縮減を図る計画となっています。そのため、厳しい財政状況の中で、公共施設の改修や統廃合、多機能化の事業を進めるなど創意工夫を重ね、適切な施設の運営を行う努力をしているところです。

それでは、一つ目の提案であります「プール施設の整備と開放について」、市内に一般の方が使用できるプールが少なく、旧山内中学校のプールを整備して一般開放が出来ないかのご提案でございました。

市では、以前、学校施設の利活用として旧山内中学校のプールを改修して、一般開放することを検討しましたが、昭和 49 年 3 月に完成した施設でございまして、老朽化の進行とともに、30 年と言われまぬ耐用年数を大幅に、このプールが超えていることから断念した、という経緯がございます。

一般の方が使用できるプールへの改修は断念しましたが、残ったプールをどう使うか、またはプールを解体してその跡地をどう使うかなど、サウンディング調査という言葉があるんですが、そういった形でのアイデア募集を行いながら利活用方法を検討してまいります。

二つ目の廃校舎の利用についてでございます。平成 17 年の市町村合併当時、横手市には小学校 26 校、中学校 12 校がございました。良好な教育環境の構築のため、学校規模の適正化を進めることを目的に横手市学校統合計画を定め、計画に基づいて統廃合を進めてまいりました。現在では、小学校 17 校、中学校 6 校に再編されてございます。

統合された校舎の活用については、旧金沢小学校を金沢孔城館、旧保呂羽小学校を前田公民館として活用したり、旧増田東小学校を野外活動体験も出来る宿泊体験施設「釣りキチ三平の里体験学習館」にリニューアルしている実例がございます。

学校施設は、地域の方々の愛着が深く、地域社会の中でも中心的な存在としての役割を果たしてきたということは、言うまでもございません。その学校を、提案にありますとおり、再び学びや憩い、交流の場として存続、存在することが可能であるならば、地域にとっては喜ばしいことだと思います。

各地域には、幅広い年代の要望に応え、多様な生涯学習の機会を提供する公民館や、地域住民が自主的に地域活動を行うとともに、行政と協力して身近な地域課題に取り組むことを目的とした地区交流センターがあります。こうした施設との共存という課題もございますが、今回の提案を学校利活用のアイデアの一つとして、今後の検討に活かしてまいりたいと思います。

そして三つ目、体育館整備と解放についてでございました。市内には公民館などに設置された体育室を含め 24 の体育館があり、それぞれ市民のスポーツ活動などに利用されております。その中には、旧大森中学校や旧十文字西中学校の体育館を、地域のスポーツとコミュニケーションの場として残した例もございます。

スポーツをキーワードに元気なまちづくりと地域の活性化を進めるためにも、気軽にスポーツに親しむことができる機会を提供することが大切であると認識しておりますが、スポーツを行う場所である体育施設、特に体育館の在り方については、地域の施設バランスや利用状況を見ながら慎重に考える必要があることも認識しております。

旧山内中学校の体育館は平成 8 年度に建設され、市内の学校施設の中でも比較的新しい建物でありますので、今後も長く活用できるよう、今回のアイディアも含めて、様々な活用策を検討してまいります。

ということで、廃校舎を活用した学び・運動・文化の総合交流施設についてのまとめとして、皆さんが出来ることは、「廃校の事前整備・清掃で、それをイベントとしてお正月やお盆の帰省時に行ってみては。」とのご提案でございました。

市では、廃校が決まった学校について、校舎内をご覧くださいとともに、不用決定された備品や消耗品を希望者に譲渡する見学会を実施してきております。今年度も、解体とはなってしまいましたけれども、旧南小学校という学校がございましたが、そこで実施し 200 人を超える市民の皆様がお見えになりました。また、廃校となった校舎をバーチャルリアリティーで見ることが出来るよう校舎内を撮影し、映像の保存にも努めるなど、思い出として残る事業を行っているところです。

廃校舎を活用した総合交流施設の整備については、市が保有する多くの施設との整合性や地域のニーズを勘案し、様々なアイデアを募りながら検討することになりますので多くの時間を要します。その間、皆さん方によって綺麗に保つための清掃活動を行っていただくことは、大変有り難いことだと思います。そして、その清掃活動を皆さんだけでなく卒業生や地域の方々へも声がけをし、イベントとして実施することも、地域の繋がりを実感できる有意義な活動になると思います。

ここからは、本日の全ての提案にも言えることと思いますが、市では、年代の異なる様々な方々に地域の将来や課題を話し合い、将来にわたって持続可能な地域となるよう、地域づくり活動を行う「自主運営組織」の育成に力を注いでおります。そこでは、地域の現状を知り、課題や将来像を話し合うワークショップなどを開催しております。

中学生の皆さんからも積極的な意見参加をしていただきますと、課題解決に近づくことができるだろうと思いますので、これからも、様々なご意見をお寄せいただきたいと思います。以上でございます。

○谷口真子 議長 21 番 松田康永議員。

○21番（横手北中学校 松田康永議員） ご丁寧な答弁ありがとうございました。横手北中学校には、廃校となった黒川小学校、金沢小学校、境町小学校など、多くの生徒が在籍しているため、廃校活用という提案をいたしました。今の答弁を聞いて、横手市でも僕たちが知らないような様々な活動をしていて、廃校を活用しようとする動きがとても伝わってきました。現在、横手市は少子高齢化が続いており、これからは学校の統廃合は増えてくると思います。これからは僕たちが中学生から高校生、大人になったときにも、市と共にできることはないか、と自分たちなりに考えて行動していきたいと思います。今日は、本当にありがとうございました。

○谷口真子 議長 これでY8提案第2号の議事を終わります。

◎Y8提案（増田中学校）

○谷口真子 議長 次に日程第7、Y8提案第3号「少子高齢化に伴う伝統文化の継承者不足」についてを議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇増田中学校（伊藤結姫乃議員・高橋優議員・三浦怜生議員）

○谷口真子 議長 15 番 増田中学校 伊藤結姫乃議員、16 番 高橋優議員、17 番 三浦怜生議員に発言を許可いたします。

15 番 伊藤結姫乃議員、16 番 高橋優議員、17 番 三浦怜生議員。

○15番（増田中学校 伊藤結姫乃議員） 私たち増田中学校からは「少子高齢化に伴う伝統文化の継承者不足」について政策提案いたします。

まず初めに、増田町の伝統文化の継承者不足に関する事例をお話いたします。

増田町では毎年8月に「増田の盆踊り」という伝統的な祭りを行っています。しかし、年々参加者が減ってきており、大人数で踊るという増田の盆踊り特有の魅力が失われつつあります。実際、今年度私たちが初めて参加してみましたが、やはり大人が多く、子どもがかなり少ない印象でした。町の人に話を伺ってみると、「昔は通りいっばいで踊ったものだが、今ではだいぶ寂しくなったな」とおっしゃっていました。

こちらをご覧ください。これは増田の盆踊りの会場となる、中七日町通りの図です。この通りは 350 メートルほどありますが、かつてはこの通りを埋め尽くすほどの大きな円になって踊ったそうです。しかし現在は、こちらで示した青色の部分ほどの大きさとなりました。また今年度の、増田の盆踊りの参加数は約 500 人でした。2 年前は約 700 人だったとのことで、たった 2 年で 200 人も減ったそうです。

この結果からも分かるように、伝統文化の継承者不足が深刻な問題であると言えます。これは増田の盆踊りに限った話ではなく、横手市全ての地域でいえることであり、地域の魅力を守っていくうえで大きな課題と言えます。

増田中学校では「総合的な学習の時間」を利用して、増田地域の伝統文化や祭りについて学習し、積極的に継承していこう、また他地域に広めていこうと活動しています。今年度は総合のオリエンテーションでテーマ選択の事例として、増田の盆踊りについて全校で学習する機会を持ちました。

このように私たちは、地域の子どもたち若者たちがもっと自分の住む町の伝統文化に興味をもち、参加していくこと、またその機会をつくるのが大切だと考えます。そこで、二つの提案をさせていただきます。

○17 番（増田中学校 三浦怜生議員） 一つ目の提案は、小中学校に市が一体となって講師の方などを招いて、その地域の伝統文化や祭りについて学び、体験する機会を設けるのはいかがでしょうか。これにより伝統文化に興味をもつ小中学生が増えるのではないかと考えられます。実際に増田中学校では保存会の方を招いて、盆踊りや太鼓を指導してもらいました。その成果を学校祭や地域行事、イベントなどで披露しました。今年、太鼓や盆踊りを行ったメンバーは 14 名でしたが、その中の 3 分の 2 にあたる人は特に、これまで経験したことがなく新たにメンバーに加わりました。いわば文化や伝統の新たな継承者です。

そこでこの人たちに対してアンケートをとったところ、「とても楽しかったし、達成感を得ることが出来た」「体験してみて初めてわかることがあった」「地域に貢献することが出来たし、地域の新たな魅力に気づくことが出来た」といった感想を聞きました。それだけでなく「下級生にも伝えていきたい。受け継いでいきたい」「これからも地域の伝統行事に積極的に参加していきたい」「他地域にも広く知ってもらいたい」といった声も出ました。また太鼓や盆踊りの技術を身に付ける以外の収穫や見方、考え方で変化した点として、「自分の役割に責任を持つようになった」「周りのことをよく見たり、相手の立場になって考えられるようになった」といった声も聞かれ、プラスの効果を実感できました。

増田中学校では今年度、生徒全員で盆踊りを踊る機会を何度か設けました。このように市と地域と学校が一体となって、伝統文化に触れる機会を設け、人材バンクの仕組みを整えるなどの継承していく次世代の担い手を育成する活動を行えばよいのではないのでしょうか。さらに、実際に社会に出て担っていく時期に近い「高校生」に向けても声をかけることで、後継者不足の解消につながるのではないかと考えます。

○16 番（増田中学校 高橋優議員） また二つ目の提案として「よこて市報」に毎回特設コーナーのよ

うなものを設け、横手の様々な伝統文化を紹介してみてもどうでしょうか。例えば、そこに中学生が参加してみた感想や、写真を載せてみたら多くの人に関心を持ってもらえるのではないかと考えます。唯一無二の地域の魅力を伝える、良いきっかけになると思います。

実際、横手市に住んでいる私たちでも知らない伝統文化が、まだまだたくさんあります。この文化を横手市外に発信する前に、まずは私たちが知るということが大切なのではないのでしょうか。先日11月4日、月曜日に横手市民会館で第4回横手市子ども伝統芸能発表大会が開催され、増田地区では増田盆踊り保存会として増中生4名も参加し、踊りを披露しました。ほかに横手、大森、雄物川地区から5団体が出演しました。参加した増中生から感想を聞いてみたところ、「当日は3連休の最後、振替休日だったこともあり観客が少なかったのが残念だった」「私たち以外に、同年代の人が地道に伝統芸能を継承していることがわかった」「こういうイベントが行われていることを知らない市民が多いので、もっと多くの世代の人たちに見てほしい」という感想をあげてくれました。やはり何か知るきっかけが、大切だと実感することができました。広い範囲に配られる「よこて市報」のメリットを最大限に生かすことで、伝統文化の継承者不足の解消につながると考えます。以上が私たち、増田中学からの提案です。

一つ、小中学校に講師の方などを招いて、その地域の伝統文化や祭りについて学び、体験する機会を設ける。一つ、市報に毎回、特設コーナーの様なものを設け、横手の様々な伝統文化を紹介する。この2つの政策提案についてどのようにお考えでしょうか。

○谷口真子 議長 教育長。

○伊藤孝俊 教育長 増田中学校から「伝統文化の後継者不足について」ご提案がありました。皆さんの提案を聞いた率直な感想、本当に有り難い、そして全く同感であります。その上で、答弁をさせていただきます。

横手市内には古くから伝わる、沢山の伝統文化や祭りがございますが、少子高齢化などを理由に、その存続や継承がうまくいかず苦慮している団体も大変多く、後継者育成は重要で急ぐべき課題であります。

このような状況の中、増田中学校の皆さんが、地域の伝統文化や祭りについて調べ、継承していこうと活動し、そしてそれを広めていこうと今回ご提案いただいたことに、心から感謝申し上げます。増中のこれまでの取組の状況も、今ご紹介いただきました。また増田地域の伝統芸能の発表会なども、つい最近行われています。そういった増田地域全体の活動に対しても、大変敬意を表するところであります。

教育委員会では、小中学校の皆さんに、横手市の伝統や歴史文化などについてもっと深く知っていただき、ふるさとに愛着と誇りをもって、未来を切り拓いていただきたいという思いで「横手を学ぶ郷土学」という事業に力を入れて取り組んでおります。

「よこて大好き」も、その中で行われている授業の一つであります。一方、学校や地域と協力して伝統芸能を継承していくための「育成チーム」を結成し、後継者を育成する活動を進めております。現

在は、秋田県指定無形民俗文化財「金沢八幡宮掛唄行事」伝承のため、横手北小学校で「金沢伝統掛唄よこてチャレンジキッズ」というのを結成し、メンバーが保存会の指導のもと稽古を重ねて「金沢八幡宮伝統掛唄大会」に出場をしております。

また、児童生徒が出演する「子ども伝統芸能発表会」を開催しており、発表の場としてのみならず出場団体同士の情報交換を通じた後継者育成の場となるよう支援をしているところでございます。

このほかにも、地域の伝統文化や伝統芸能団体の方々のご指導をいただいて、継承のための取り組みをしている学校の例がございます。

例えば、雄物川小学校では「年末年始行事伝承会」、十文字第一小学校では「仁井田番楽」、吉田小学校では「深間内神楽」、横手南小学校・横手北小学校・朝倉小学校・増田小学校などでは「梵天唄」、横手北中学校では「金沢ささら舞」、横手明峰中学校では「岡本新内」「八沢木獅子舞」などに取り組んでおります。

古くから伝わる豊かで貴重な伝統文化や祭りは、直接体験することにより、一層理解が深まり興味もわいてきます。

今後も増田中学校の皆さんからご提案にあったように関係団体や自治会、市内小中学校などとの連携をより深め、一体となって後継者育成のための活動を行ってまいりたいと考えております。

また今回は、「市報よこて」を活用した貴重な伝統文化の情報発信についてもご提案をいただきました。8つの地域が合併して来年10月で15年を迎えますが、お住いの地域以外の伝統文化を知らない、といったお声も聴かれますので、ご提案があったように機会をとらえて、できるだけ詳細に紹介する工夫を検討してまいりたいと思います。また、次代を担う皆さんが旗振り役となって伝統文化を調べ、発信していくことが今後に結びつく大きな力となると思います。そういった意味で、今後も若い皆さんによる情報発信の取り組みの継続、そして拡がりについてご期待申し上げます。

市と一緒に頑張ってまいりましょう。以上でございます。

○谷口真子 議長 15番、伊藤結姫乃議員。

○15番（増田中学校 伊藤結姫乃議員） 大変ご丁寧な答弁、本当にありがとうございます。時間が無い中、前向きに私たちの提案を考えてくださり本当に嬉しく思います。これからも私たち中学生が、今後の横手市をつくっていくのは自分たちである、という当事者意識を持って考えていきたいと思います。本当にありがとうございました。

○谷口真子 議長 これでY8提案第3号の議事を終わります。

◎Y8提案（平鹿中学校）

○谷口真子 議長 次に日程第7、Y8提案第4号「フォトコンテストのInstagram活用」についてを議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇平鹿中学校（戸田響議員・小杉光議員・川崎知己議員）

○谷口真子 議長 3 番 平鹿中学校 戸田響議員、10 番 小杉光議員、11 番 川崎知己議員に発言を許可いたします。

3 番 戸田響議員、10 番 小杉光議員、11 番 川崎知己議員。

○11 番（平鹿中学校 川崎知己議員） 平鹿中学校からは、横手市の良さを知ってもらい、観光客や市外からの人を呼び込むために、「フォトコンテストにおけるインスタグラムの活用」について提案させていただきます。

○10 番（平鹿中学校 小杉光議員） 平鹿中学校では、総合的な学習の時間に、ふるさと横手について多方面から考える学習を行っています。6 月には、全校で学年の垣根を越えた 5～6 人のグループの中で、学習旅行や修学旅行の旅行先と横手市を比べて感じたことや考えたことについて発表する「輝きトーク」を行いました。その「輝きトーク」の後半、グループで「横手市に必要なものって？」というテーマのもと話し合いを行いました。多くの生徒から出てきたのが、市外から人を呼び込むために SNS を利用して横手市の PR を行えば良いのではないかというものでした。これが実際にその「輝きトーク」であげられたものです。四つの班に共通してあげられたのは、横手市に必要なものは「PR 力」またそれらを補うためにはインターネットの利用が効果的だというものでした。近年、インターネットで話題になったものが沢山売れたり、話題になった場所に沢山の外国人観光客が訪れたりするなど、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムといった SNS の効果は絶大です。その中でもインスタグラム利用者は全世界で 10 億人を超え、国内でも 3,300 万人を超えています。20 代の利用が多いのですが、幅広い年代で利用されているそうです。平鹿中でもアンケートをとったところ、インスタグラムを利用している生徒は全校の約 35%、またインスタグラムに投稿された写真を見たことがある生徒は全校の約 59%と、多くの中学生がインスタグラムを利用しているという現状が分かりました。

そこで、現在も横手市で行われている「『いいね！』『撮っておき！！』な、よこてフォトコンテスト」に、インスタグラムの写真部門、動画部門を設けてはどうでしょうか。それによる効果を 2 つ説明します。

○11 番（平鹿中学校 川崎知己議員） 一つ目は、集客効果が見込めるということです。インスタグラムは世界的にも多くの利用者がいて、「#Japan」等の検索で見付けた写真を参考に、日本の旅行先を探したりするそうです。横手市でもインスタグラムを利用することで、外国からの観光客を呼び込むことができるのではないのでしょうか。また、インスタグラムは外国人だけでなく、日本の若い世代の目にもとまりやすく、国内からも横手市を訪れてみたいと思う人が増えると思います。

○3 番（平鹿中学校 戸田響議員） 二つ目は、横手市の若い世代に横手市の良さを再認識してもらえるという効果です。平鹿中学校での総合的な学習の時間の話し合いでは、横手市の良さについて「自然豊かなところ」「人が優しいところ」などが挙がりましたが、他にはどんなところがあるのかと聞くと、な

かなか良さが挙がりませんでした。インスタグラムを活用したフォトコンテストは、中高生でも気軽に参加できると思います。各中学校や高校でもフォトコンテストの宣伝をしてもらい、応募する人が多くなれば、自分たちで横手市の良さを探し、そしてその良さを再認識できるのではないかと思います。

以上の提案についてご意見をうかがいたいと思います。よろしくお願いします。

○谷口真子 議長 市長。

○高橋大 市長 平鹿中学校からは、フォトコンテストのインスタの活用についてのご提案でございました。答弁をさせていただきます。

平成 25 年に開始いたしましたフォトコンテストは、横手市内で撮影された、魅力あふれる写真を募集いたしまして、市の観光PRに活用してまいりましたが、一定の役割を果たしたとみなしまして、昨年度をもって事業を廃止してございます。しかしながら、議員がおっしゃいますとおり、市外から人を呼び込むためにSNSを活用することは、今の時代必須であると承知しております。

またインスタグラムは若者の間で、非常に多く利用されていますことから、市でも今後、インスタグラムの活用を検討していきたいと考えます。以上でございます。

○10番（平鹿中学校 小杉光議員）丁寧なご答弁ありがとうございました。今回、僕たちは市外からの集客という観点よりグローバル化に対応したインターネットの活用の仕方について提案させていただきました。ただ今、答弁より昨年にフォトコンテストが廃止されたというコメントがありました。やはりインターネットの効果というものは、絶大でありそれを使わないというのは少し、もったいないなという感じがしました。今回の僕たちの発表を踏まえて、より活用していってもらえればなと思いました。ありがとうございました。

○谷口真子 議長 これでY8提案第4号の議事を終わります。

ここで議長を交代いたします。後半は平鹿中学校 3番 戸田響議員に議長をお願いいたします。

議長交代のため、暫時休憩いたします。

再開は午後2時20分といたします。

午後2時11分 休 憩

午後2時20分 再 開

○戸田響 議長 後半から議長を務めさせていただく平鹿中学校、戸田響です。

議事、振興がスムーズに行われるよう心掛けますので、よろしくお願いします。

休憩前に引き続き、会議を開きます。

◎Y8提案（横手明峰中学校）

○戸田響 議長 日程第9、Y8提案第5号「横手市移住推進大作戦」についてを議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇横手明峰中学校（谷口真子議員・佐々木柊平議員・上田あい議員）

○戸田響 議長 2番 横手明峰中学校 谷口真子議員、8番 佐々木柊平議員、9番 上田あい議員に発言を許可いたします。

2番 谷口真子議員、8番 佐々木柊平議員、9番 上田あい議員。

○9番（横手明峰中学校 上田あい議員） 私たち横手明峰中学校が提案する内容は、「横手市移住推進大作戦」です。

今までのY8で他校の仲間たちと話合ってきた中で、私たちが特に注目した課題は、横手市の人口減少問題です。この問題を改善するためには、市外から移住する人をどうやって呼び寄せるかだと考えました。都会と比べるとここ横手では、子どもたちが伸び伸びとした生活が送れると思います。自然が多く残っていたり、ほとんどの住宅地はたくさんの緑に囲まれているので、小さい子どもたちが成長するために適している環境だというイメージがあります。例えば『子どもは自然や緑の多いところで伸び伸び育てよう！』のようなキャッチフレーズを募集して作戦を開始してみてはいかがでしょうか。何よりも私たちが、横手で生まれてよかったと思っています。都会には、田舎に住みたい、あるいは子どもを自然の中で育てたいと思っている親御さんもたくさんいると思います。

○2番（横手明峰中学校 谷口真子議員） しかし、実際に移住するとなると仕事の面や経費など、様々な問題があつてなかなか行動に移せていない人がいると思います。そこで横手市がそういう方々を対象に、移住のきっかけを作つてあげたり、住むことが決定した後に支援したりするのがこの作戦です。

まず、1年に10家族ほど、横手に住む体験家族を募集します。横手は四季折々の特徴があるので、好きなシーズン、例えば夏休みや冬休みなどの1、2週間程の期間で滞在してもらいます。私たち中学生は例えば『よこてに生まれてよかった♥』『横手大好き☆』などのキャッチフレーズを考えて、募集ポスターの作成に協力できます。また、募集VTRを製作してネットで配信することも考えられます。

○8番（横手明峰中学校 佐々木柊平議員） 体験家族を歓迎する交流イベントや『おもてなし』のお手伝いも、私たちにできると思います。横手はお米をはじめ、野菜や果物などたくさんのおいしい農産物に恵まれ、郷土料理などの食文化が充実しています。全国的に有名な横手やきそばや十文字ラーメンなどの名物もあります。秋田は、全国学力テストでは、常にトップクラスであることも移住のきっかけになってくれるのではないかと考えています。犯罪や大規模災害が少なく、治安のよい街、そして人々の優しさやあたたかさもアピールできると思います。

実際に移住が決まったご家族を横手市が手厚く応援して、少しでも人口減少に歯止めをかけ、この私たちの大好きなふるさとがこれからもずっと在り続けてほしいと思います。以上で提案を終わります。

○戸田響 議長 市長。

○高橋大 市長

明峰中学校さんからは、横手市の移住推進大作戦についてと題して、ご提案いただいたところがございます。答弁させていただきます。

人口減少問題は、横手市にとってとても大きな問題です。横手明峰中学校の皆さんがその点に着目し、移住する人を呼び寄せるにはどうしたらよいのか、さまざまな提案をしてくれたことに対しまして、まずもって、感謝を申し上げる次第でございます。その中でも「中学生の皆さんからキャッチフレーズを募集する」という提案は、とても良い提案だと感じております。

現在、横手市では、移住をお考えの方に対しまして、横手市がどんな街か、また、仕事や子育て、住居などについて、どのような支援を行っているのかなどを紹介するパンフレットの作成や、ホームページでの紹介などを行っております。中学生の皆さんからご提案いただいたキャッチフレーズは、そのような場面で使用することなども可能だと思いますので、実施に向け、検討してまいりたいと思います。

また、「横手に住む体験家族募集」のご提案でございましたが、こちらは横手市でもすでに取り組みを実施してございまして、今年度は11月30日から1泊2日の予定で、冬を迎える前の農家の冬支度の体験をしていただくツアーを計画しております。こうした横手の生活の一部を体験していただき、移住の参考にしていただきたいと考えております。

このほか、移住の支援としては、空き家を取得して移住しようとする方に対して、空き家のリフォーム費用の一部を補助行っておるところです。

皆さんの提案にもございました、横手市は自然豊かで、季節の移り変わりがハッキリとしておりまして、のびのびと子どもが育つ、子育てできる、そういう環境にございます。「移住」ということは、人生の一大決断であると思いますので、横手市に住んでみたいとお考えの方が「後悔のない判断をしていただく」ことを第一に考えまして、市としてもさまざまな知恵を出しながら取り組んでまいります。

皆さんも横手ファンを増やしていただくために、さまざまな場面で横手市のことを情報発信していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

まあ、なかなか横手以外に住んだこと、おそらくこの中ではないであろう皆様方が、他と比べて横手のここがいいというのを気付くという状況というのは、難しいですね。まあ修学旅行に行ったときと言っても、別に瞬間的にその場所に行くくらいで、実際に暮らしている訳でもございませんし、そういった他の地域の方々と、密に触れ合うという機会も少ないでしょうから、横手のここが他と比べて、こういうなのというのは難しいと思います。そんな中での提案ということで、ここに住みながらもですね、いいと思える部分がこれだけあるということは、私も嬉しく思います。

まあ私は、生まれは横手でございますけれども、育ちは東京でございまして、東京の小学校を卒業しました。大学卒業後も、東京でサラリーマンとして6年働いて、まあいずれは政治家になってやろうというような思いで東京に出て、そこで東京でガッツリ稼いで経験も身に着けて、知識も身に着けて、それでゆくゆくはという思いではいましたけれども、中々あつちも、こつちもという形で暮らせる経験を皆が出来るかという、難しいですね。ただ、何気ないその地域の様々な行事とか、景色とか、習慣と

かも、実は他と比べると際立って素晴らしい、優れているという点がいっぱいございます。是非ともですね、これから成長していくにしたがって、じわじわとこの地域の良さが分かってくるとと思いますので、引き続きその気持ちで頑張っていただければと思います。ちなみにですね、私東京によく出張に行きます。私は注文するわけじゃないんですけども、居酒屋に行った仲間が勝手に枝豆を注文しちゃう場合があります。その時に東京の居酒屋の枝豆って味がしないんですね。あの、枝豆の食感はしますよ。皆さん方、東京の安い居酒屋の枝豆を体験するためには、取れたての枝豆を若干、時間をおいてですね、ちょっとまあ風味が飛ぶくらい劣化させて茹でて食べれば東京の居酒屋の枝豆の味を体験できると思います。枝豆の味しないんですよ。でも皆さん方は、枝豆の味しますよね。それは都会ですと普通じゃないんですよ。なので枝豆とビールの体験はこの後でしょうけれども、まずそういった違いで、こっちはこっちのいいところがあるということで、今後も掘り下げて探してみただければと思います。以上です。

○戸田響 議長 8番、佐々木柊平議員。

○8番（横手明峰中学校 佐々木柊平議員） 丁寧なご答弁ありがとうございました。具体的なキャッチフレーズの改善というか、活用の面とか、また僕たちの提案について褒めていただきありがとうございました。さっき市長が言われたように、枝豆が味がしないというところで、僕たちも知らなかったのもので、それが当たり前だと思っていたので、そんな当たり前のところにも横手の良さが出ているんだなと思ったので、そういう小さいところから僕たちも少しずつ横手ファンになっていって、その僕たちの周りの人も少しずつ横手ファンにしていって、横手市の人口維持を自分たちから積極的に呼びかけていこうと思いました。今日は、ありがとうございました。

○戸田響 議長 これでY8提案第5号の議事を終わります。

◎Y8提案（十文字中学校）

○戸田響 議長 次に日程第10、Y8提案第6号「十文字地区新庁舎及び廃校の有効活用による地域活性化と観光客の呼び込み」についてを議題といたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇十文字中学校（佐藤琢磨議員・糸井颯太議員・藤川美涼議員）

○戸田響 議長 18番 十文字中学校 佐藤琢磨議員、19番 糸井颯太議員、20番 藤川美涼議員に発言を許可いたします。

18番 佐藤琢磨議員、19番 糸井颯太議員、20番 藤川美涼議員。

○20番（十文字中学校 藤川美涼議員） 私たち十文字中学校は、「十文字地区新庁舎及び廃校の有効活用による地域活性化と観光客の呼び込み」について三つの提案をします。

一つ目は、「十文字第一小学校廃校による跡地の有効活用」について提案をします。

私たちは、地域に異年齢の交流の場や観光客が少ないことを問題として考えました。調査の結果、十文字地区には新庁舎が建設されること、小学校の統合と新校舎建設により、現在の校舎が空くことが分かりました。また、十文字地区は高速道路、道の駅、ＪＲと交通の利便性も高く、観光客を呼び込む要素があることも分かりました。特に十文字第一小学校の校舎は、道の駅や高速道路、インターチェンジからも近く、観光客を呼び込みやすい立地にあると考えています。そこで、十文字第一小学校を複合施設として活用することを提案します。

こちらが実際に廃校を活用しているカフェです。素敵な雰囲気になっていて、誰でも利用しやすいようなカフェになっています。横手市でも複合施設がつくられていますが、このような形の例は見られていません。ＳＮＳを活用してカフェなどの店舗の出店者を募集したり、レンタル会議室、オフィス、図書館などの活用、また、グラウンドは定期的に朝市を開いたりしてはいかがでしょうか。

○１９番（十文字中学校 糸井颯太議員） 二つ目は「十文字地区新庁舎の有効活用」について提案します。

十文字地区では実行委員会が中心となって、1991 年から十文字映画祭を開いています。こちらが実際の映画祭の写真です。このイベントは有名な映画監督さんや役者さんも呼んでおり、以前の映画祭では、西島秀俊、伊勢谷友介、志田未来がゲストに呼ばれています。このイベントを映画だけではなく、屋台出店など横手市の食をＰＲすることで、観光客の集客も見込めると考えています。しかし、現在のイベントを行っている会場の十文字文化会館は老朽化が進んでいます。そこで、新庁舎の建設の際に映画の上映が可能なスペース、設備を作り、十文字映画祭などのイベントに開放することを提案します。普段は、自由に地域の住民が交流できたり、学生が勉強できたりするスペースとして活用するというのはいかがでしょうか。立地的にも道の駅が徒歩圏内であり、大きな祭りにできると思います。

○１８番（十文字中学校 佐藤琢磨議員） 三つ目に「ＳＮＳを活用した横手市ＰＲ」について提案します。

現在横手市にある観光資源は魅力的なものが多いと考えています。この観光資源を生かすためにはＰＲするという考えから、ＰＲしてもらうという発想が必要だと考えます。そこで、ＳＮＳの有効活用を提案します。横手市のフェイスブックのフォロワーは 10 月 21 日時点で、9,640 人と県内の秋田市（1,645）、大仙市（4,323）、湯沢市（1,800）と比べてもかなり多いフォロワー数だということが分かります。これに加えて、ツイッターやインスタグラムを活用して一般の方から横手市の魅力を発信してもらうことが有効であると考えます。私たちは学校祭でインスタ映えスポットを作り、お客様に楽しんでもらいました。実際に、スマホで写真を撮るお客様はたくさんいました。これは学校祭でのインスタ映えスポットの実際の写真です。大人の方だけでなく私たち、中学生が発信できることがＳＮＳの最大のメリットです。

このようなＳＮＳのメリットを活用して、市のイベント的なことだけでなく、一般の方が注目しやすい市の魅力を発信することはいかがでしょうか。以上で十文字中学校の提案を終わります。

○戸田響 議長 市長。

○高橋大 市長 十文字中学校からは「十文字地域の新庁舎及び廃校の有効活用による地域活性化と観光客の呼び込み」について３点ございました。

まず跡地の有効活用についてでございます。現在、十文字地区の４つの小学校を統合し、新たに十文字小学校を令和３年度に開校する事業を進めております。

横手北中学校からの提案でもお話いただきましたが、廃校舎の利活用については、建物の老朽度を勘案しながら、サウンディング調査と呼ばれるアイデア募集を行い、利活用の方法を検討しているところです。

十文字第一小学校については、提案にありましたとおり、国道や高速道路、ＪＲなど交通の利便性も高く、道の駅も近接している好立地にあることから、様々な利活用の方法があるものと認識しております。

今回の提案は、校舎のみならずグラウンドも含めた総合的で具体的な利活用の方法であります。今後、十文字庁舎の跡地と併せて検討する際、地域に住んでいる皆さんからの貴重なアイデアとして参考にさせていただきたいと存じます。

次に十文字地区の新庁舎の有効活用についての提言でございました。

十文字地域局庁舎については、昭和３３年の建築であり、老朽化が著しくなっております。又、隣接する文化センターと幸福会館についても、老朽化が進んでおります。

そのため、市では、十文字庁舎の行政機能と、幸福会館で行っている検診機能、そして文化センターの持つ生涯学習機能に加え、市民交流機能、地域防災機能を併せ持つ多目的総合施設として来年１１月のオープンに向けて建設工事を進めてございます。

新施設には、和室、洋室、防音仕様の部屋など多様な部屋の他に、最大４００平方メートル、例えば中学校の普通教室６部屋分ぐらいのまとまった、それぐらいの面積の広さで使える多目的スペースなども備えており、地域の皆さん方に学習・交流の場として活用いただけます。

新施設には、文化センターのような客席・ステージのあるホールは有しておりません。これまでのような形で映画祭の開催は困難となりますが、多くの人々が一堂に会して交流するのに十分な広さと機能を備えている施設となりますので、今後は違う手法での開催について、十文字映画祭の実行委員会の皆さんと協議してまいりたいと考えています。

いずれ、多様な使い方のできる施設となることから、中・高生の皆様方も含めまして、多くの市民の方々にご利用いただきたいと考えておりますので、今後も活用方法などアイデアをお寄せいただきたいと存じます。

加えて、建設地は、国道１３号線沿いで、道の駅十文字、秋田ふるさと農協十文字支店、よこて市商工会とも、隣接しております。それぞれの機関としっかり連携をし、様々なイベントを通じて地域の賑わい創出に努めてまいります。

最後のSNSを活用した横手のPR、ということでございました。

市では、市報、ホームページ、フェイスブック、ユーチューブ、横手市LINEなどを活用しまして、情報発信をしております。

横手市のフェイスブックのフォロワーは9,600人を超えてございまして、まあ秋田県内ではもちろんトップではございますし、全国的にもトップクラスの登録数を獲得しております。

また昨年8月から開始した、横手市LINEについては、1年間で2,400人から登録いただいております。横手市の情報発信の注目度の高さを、まずは知ることができると思います。

さらなる横手市の魅力を発信するため、議員がおっしゃるとおり、イベントのみならず、一般の方でも注目していただけるような情報を発信してまいりたいと思います。

また議員の皆様には、横手市が発信する情報に是非興味を持ってフォローしていただきまして、ご友人などに広めていただければ有り難いと思っておりますので、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

○戸田響 議長 18番、佐藤琢磨議員。

○18番（十文字中学校 佐藤琢磨議員） ご丁寧な答弁ありがとうございました。地域活性化のために私たち中学生ができることを、しっかりとこれからも地域の一員として頑張っていきたいと思っております。

私たち学生にとっても、地域の方々にとっても、横手市にとっても、すべ他の人たちにとっていい提案となるようによろしくお願いします。

○戸田響 議長 これでY8提案第6号の議事を終わります。

◎Y8提案（横手清陵学院中学校）

○戸田響 議長 次に日程第11、Y8提案第7号「次世代へと繋がる地域づくり」についてを議題いたします。

提案者より、提案説明を求めます。

◇横手清陵学院中学校（田中唯議員・佐藤颯太議員・半田日向議員）

○戸田響 議長 12番 横手清陵学院中学校 田中唯議員、13番 佐藤颯太議員、14番 半田日向議員に発言を許可いたします。

12番 田中唯議員、13番 佐藤颯太議員、14番 半田日向議員。

○12番（横手清陵学院中学校 田中唯議員） 横手清陵学院中学校では、多くの若者が集う次世代へと繋がる地域づくりを目的に『Mirai Plan』を提案いたします。内容としては横手駅周辺の市街地開発事業への提案です。具体的には「中高生の意見を取り入れた図書館建設について」です。

○14番（横手清陵学院中学校 半田日向議員） この提案をするために、横手清陵学院では、中高一貫校の強みを生かし、中高生へアンケートを実施しました。アンケート内容としては『どんな施設が欲し

いか』『どんな環境で施設を利用したいか』『どんな企画があるといいか』この三つになります。アンケートの結果から、欲しい施設としては『スタディカフェ』や『学生専用スペース』が多く、環境としては『飲食可能』や『閉館が遅い』といった意見が多くありました。

○12番（横手清陵学院中学校 田中唯議員） これらの結果を踏まえて、いくつか提案をしたいと思います。

提案1、デザイナーズライブラリーの建設について。デザイナーズライブラリーというのは、デザイン性・利便性に優れた図書館のことです。デザイン性に優れていれば、国際教養大学(AIU)の図書館のように、CMのロケ地になったり、それを目的に横手市に訪れたりする人が増えることが期待できます。また、駅前という利便性に優れていれば、横手市内だけでなく市外からの利用者が見込まれ、横手市のランドマークになることが考えられます。そこで、図書館のデザインを公募するデザインコンペの開催を提案いたします。

○13番（横手清陵学院中学校 佐藤颯太議員） 提案2、複合型図書館についてです。『スタディカフェ』や『学生専用スペース』を備えた図書館があれば、横手駅周辺に若者が集い、活性化するのはないかと考えます。また、駅前という立地も考え、学校帰りの生徒が電車を待つ時間を利用して学習するため、閉館時間が午後9時程度であることが望ましいと考えます。多賀城市立図書館のような複合型図書館が駅前にあれば、駅前の活性化が期待できると考え、複合型図書館の建設を提案いたします。

○14番（横手清陵学院中学校 半田日向議員） これらの提案から、未来の横手は駅周辺を中心に、若者が自主的に学習するために集う場所になると考えます。この未来への計画『Mirai Plan』は横手市民全体が明るい未来を歩んでいくために最も適したものだと考えます。以上で私たちの提案を終わります。

○戸田響 議長 市長。

○高橋大 市長 横手清陵学院中学校からは「次世代へと繋がる地域づくり」について2点ご質問でございました。まとめて答弁をさせていただきたいと思います。

横手駅東口に建設を計画している「図書館もある公益施設」は、市民の皆様の様々な学びや成長を助け、新たな体験に出会う場所として、また、市内や市外にかかわらずたくさんの人が利用し、くつろげる施設として建設の準備を進めております。

加えて私は、この新しい施設を普段から図書館を利用している方々はもちろん、これまで図書館や公共施設をあまり利用していなかった方々にも毎日のように使っていただけるよう、多様な使い方のできる施設にしていきたいと思います。

施設の建設にあたっては、民間の会社を中心とする市街地再開発事業という手法によりまして、設計会社がすでに決定されておりますので、ご提案いただきましたデザインコンペの開催は、ちょっと困難ではございますが、多くの皆様に愛されるような施設となるためには、やはり「デザイン性」や「利便性」といったような視点は大変重要であると考えております。

具体的な例といたしましては、居心地の良い空間を演出するための内装や備品のデザインを良くすることや、図書の自動貸出返却機の活用などが考えられますが、こうした視点をどのように取り入れているのか、全国の、先ほど色々紹介いただきましたが、先進的な施設を研究したり、専門家からアドバイスをいただいたりしながら、施設の設計に取り組んでまいります。

また「スタディカフェ」や「学生専用スペース」につきましては、今年の4月から5月にかけて、市で実施した市内の中高生、それぞれの2年生を対象にしたアンケートでも、同様の要望をいただいております。

新しい施設には、これらのご意見も踏まえ、同様のスペースを組み入れる方向で具体的な検討に入っております。加えてこうした若い世代をターゲットとしたスペースのほか、子育て世代の方が快適に過ごせたり、またビジネスのために横手市内を訪れた方が利用できるようなスペースなども作りたいと考えております。

また、利用時間につきましては、隣のY2ふらざが午後10時まで利用可能となっておりますので、中高校生はじめ多くの市民の皆様にご利用いただいております。こうした状況も念頭に置きながら利用時間の決定を考えてまいりたいと思います。

横手駅東口のにぎわい創出の起点となり、わくわくするような、そういうような空間、公共施設の設置を目指してまいりたいと考えてございます。以上でございます。

○12番（横手清陵学院中学校 田中唯議員） 丁寧なご答弁、有り難うございました。僕たちが考えた案は、横手市の再開発事業へのプラスへの提案だったので、同じ様なことを考えている場合がおおかったので、僕たちの意見も取り入れた内容をしてもらえればいいな、と思いました。本日はありがとうございました。

○戸田響 議長 これでY8提案第7号の議事を終わります。

◎閉会の宣告

○戸田響 議長 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これで令和元年Y8サミット創快横手市議会を閉会いたします。大変お疲れ様でした。

午後2時56分 閉会

この会議録の内容に間違いがないことを確認し署名します。

横 手 市 議 会 議 長 播 磨 博 一

Y 8 サミット創快横手市議会議長 谷 口 真 子

Y 8 サミット創快横手市議会議長 戸 田 響

Y 8 サミット創快横手市議会議員 高 橋 海 音

Y 8 サミット創快横手市議会議員 松 田 康 永

参 考 資 料

○令和元年 Y 8 サミット創快横手市議会政策提案

令和元年

Y 8 サミット創快横手市議会

政策提案

令和元年Y 8サミット創快横手市議会 政策提案目次

- (1) Y 8 提案第 1 号 冬のスポーツ・文化行事について
(横手南中学校からの提案) 1 ページ
- (2) Y 8 提案第 2 号 廃校を活用した学び・運動・文化の総合交流施設について
(横手北中学校からの提案) 2 ページ
- (3) Y 8 提案第 3 号 少子高齢化に伴う伝統文化の継承者不足について
(増田中学校からの提案) 3 ページ
- (4) Y 8 提案第 4 号 フォトコンテストのInstagram活用について
(平鹿中学校からの提案) 4 ページ
- (5) Y 8 提案第 5 号 横手市移住推進大作戦について
(横手明峰中学校からの提案) 5 ページ
- (6) Y 8 提案第 6 号 十文字地区新庁舎及び廃校の有効活用による地域活性化と
観光客の呼び込みについて
(十文字中学校からの提案) 6 ページ
- (7) Y 8 提案第 7 号 次世代へと繋がる地域づくりについて
(横手清陵学院中学校からの提案) 7 ページ

Y 8 提案第 1 号

冬のスポーツ・文化行事について

横手南中学校から次のとおり政策提案する。

令和元年 1 1 月 1 4 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手南中学校

〔提案説明者〕 ^{たかはしかい と}高橋海音 議員、 ^{やまもとこうよう}山本航陽 議員、 ^{さと うひろ な}佐藤広菜 議員

〔提案要旨〕

例年、本校の中学 2 年生では、横手市内の事業所や施設で職場体験を行っている。その際、横手市内で働く方々から「横手市で暮らし、働いて感じる課題」をアンケートした。そこで共通して出てきた課題として、第一に「かまくらに代表される観光資源でもありながら、害をもたらす雪」、第二に「進行する少子高齢化と地域の絆の希薄化」、第三に「横手市を訪れる人口である交流人口の増加から、横手市に暮らす定住人口の増加の必要」というものがあつた。

これらの課題から、「冬に雪と親しむ行事を考えられないか。また、世代を超えて地域の絆を深め、他地域の人々も横手や雪に魅力を感じてくれる企画は出来ないか」との考えに至ったため、これまでに実施している雪中運動会に屋内での文化的種目を追加した、全世代型参加型事業「冬の横手スポカル※フェス」の実施について提案する。

※「スポカル」とは「スポーツのスポ、文化（カルチャー）のカル」から命名。

Y 8 提案第 2 号

廃校を活用した学び・運動・文化の総合交流施設について

横手北中学校から次のとおり政策提案する。

令和元年 1 1 月 1 4 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手北中学校

〔提案説明者〕 ^{まつ た こうえい} 松田康永 議員、 ^{さ とうたけ と} 佐藤岳人 議員、 ^{やまい し ま ち} 山石真智 議員

〔提案要旨〕

横手北中学校では、校内で「将来も秋田に住みたいか」というアンケートを行ったところ、「秋田から出たい」と答えた人の理由は「秋田が嫌だから」ではなく、「秋田が住みにくいから」であった。子育てがしやすい環境を作り、幅広い世代の交流のため、以下の様な廃校舎を活用した学び・運動・文化の総合交流施設を作することを提案する。

1. プール施設の整備と開放について

廃校舎のプールを整備して一般開放することで、「スポーツ立市よこて」の発展につなげてはどうか。特に旧山内中学校は 5 0 メートルのプールであり魅力がある。

2. 廃校舎の利用について

廃校舎を活用し、習い事や自習スペース、地域住民の学びの場・憩いの場を作ってはどうか。また、自分の持っている知恵を若者に伝えたい地域の方や、勉強を教えられる方を募集すれば、幅広い世代が交流を持ち、学力の向上も期待できると考えるがどうか。

3. 体育館整備と開放について

廃校舎の体育館を整備、解放することでスポーツ少年団などのチームや、チームに所属していない人にも広く体育館を使ってもらい、「スポーツ立市よこて」を盛り上げ、市民の運動意欲向上にもつなげられると考えるがどうか。

Y 8 提案第 3 号

少子高齢化に伴う伝統文化の継承者不足について

増田中学校から次のとおり政策提案する。

令和元年 1 1 月 1 4 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



増田中学校

〔提案説明者〕 いとう ゆき の 伊藤結姫乃 議員、 たかはし ゆう 高橋優 議員、 み う ら れ い 三浦怜生 議員

〔提案要旨〕

増田町では毎年 8 月に「増田の盆踊り」という伝統的な祭りを行っている。しかし、年々参加者が減ってきており、大人数で踊るという魅力が失われつつある。実際、今年度私たちも初めて参加してみたが、やはり大人が多く、子供がかなり少ない印象だった。このように、増田の盆踊りだけではなく、他地域の伝統文化や祭りの継承者が不足している。これは地域の魅力を守っていくうえで大きな課題であるため、対策として以下について提案する。

1. 伝統文化を学ぶ機会の確保について

学校に講師の方などを招いて、その地域の伝統文化や祭りについて学び、体験する機会を作れば伝統文化に興味をもつ人が増えると考えられる。また、市と地域と学校が一体となって伝統文化を継承する機会を設け、継承していく次世代の担い手を育成する活動を行ってはいかがか。

2. 市報活用（伝統文化紹介コーナーの新設）について

「市報」に毎回特設コーナーのようなものを設け、横手の様々な伝統文化を紹介してみてはいかがか。市報に載せることで多くの人が目にすることができ、興味・関心を持つきっかけになると考える。

Y 8 提案第 4 号

フォトコンテストのインスタグラム活用について

平鹿中学校から次のとおり政策提案する。

令和元年 1 1 月 1 4 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



平鹿中学校

〔提案説明者〕 ^{とだひびき}戸田 響 議員、 ^{こすぎひかる}小杉 光 議員、 ^{かわさきともみ}川崎知己 議員

〔提案要旨〕

平鹿中学校では、総合的な学習の時間に、ふるさと横手について多方面から考える学習を行っている。6 月には、全校で学年の垣根を越えた 5 ～ 6 人のグループを作り、学習旅行や修学旅行の旅行先と横手市を比べて感じたことや考えたことを発表する「輝きトーク」を行った。その「輝きトーク」の後半に「横手市に必要なものって？」というテーマで話し合いを行ったところ、多くの生徒から出てきたのが、市外から人を呼び込むために SNS を利用して横手市の PR を行えば良いのではないかという声であった。このことから、現在も横手市で行われている「『いいね！』“撮っておき！！” な、よこてフォトコンテスト」に、インスタグラムの写真部門、動画部門を設けることを提案する。

Y 8 提案第 5 号

横手市移住推進大作戦について

横手明峰中学校から次のとおり政策提案する。

令和元年 1 1 月 1 4 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手明峰中学校

〔提案説明者〕 ^{たにぐち ま こ} 谷口真子 議員、^{さ さ き しゅうへい} 佐々木 柊 平 議員、^{うえ た} 上田あい 議員

〔提案要旨〕

今までの Y 8 で他校の仲間と話合ってきた中で、私たちが特に注目した課題は、横手市の人口減少問題である。この問題を改善するためには、市外から移住する人をどのように呼び寄せるかだと考える。都会と比べると、ここ横手では子供たちが伸び伸びとした生活が送れると思う。自然が多く残っていたり、ほとんどの住宅地はたくさんの緑に囲まれているので、小さい子供たちが成長するために適している環境だということなどをアピールするため、「横手市移住推進大作戦」の実施について提案する。

「横手市移住推進大作戦」は、1 年に 1 0 家族ほど、横手に住む体験家族を募集するものである。横手は四季折々の特徴があるので、好きなシーズンに 1 ～ 2 週間ほどの期間で滞在していただき、横手の魅力をアピールするとともに、移住が決まったご家族を市が手厚く応援し、人口減少に歯止めをかけようとするものである。

Y 8 提案第 6 号

十文字地区新庁舎及び廃校の有効活用による地域活性化と観光客の呼び込みについて

十文字中学校から次のとおり政策提案する。

令和元年 1 1 月 1 4 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



十文字中学校

〔提案説明者〕 ^{さとうたくま}佐藤琢磨 議員、 ^{いといそうた}糸井颯太 議員、 ^{ふじかわ みすず}藤川美涼 議員

〔提案要旨〕

1. 十文字第一小学校廃校による跡地の有効活用

地域に異年齢の交流の場や観光客が少ないことを問題と考え、閉校後の十文字第一小学校を、カフェ、レンタル会議室、オフィス、図書館などの複合施設として活用するとともに、グラウンドでは定期的に朝市を開くことを提案する。

2. 十文字地区新庁舎の有効活用

十文字地区では 1 9 9 1 年から十文字映画祭を開いている。しかし、現在イベントを行っている会場の十文字文化会館は老朽化が進んでいるため、新庁舎建設の際に映画の上映が可能なスペース、設備を作り、十文字映画祭などのイベントの際に開放することを提案する。

3. SNS を活用した横手市 P R

横手市の魅力的な観光資源を P R してもらおうという発想が必要ではないか。横手市のフェイスブックのフォロワーは他市に比較してもかなり多い。これに加えて、ツイッターやインスタグラムを活用して市のイベント的なことだけでなく、一般の方が注目しやすい市の魅力を発信してはどうか。

Y 8 提案第 7 号

次世代へと繋がる地域づくりについて

横手清陵学院中学校から次のとおり政策提案する。

令和元年 1 1 月 1 4 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手清陵学院中学校

〔提案説明者〕 ^{た なか ゆい} 田中唯 議員、^{さ とう そう た} 佐藤颯太 議員、^{は ん だ ひ な た} 半田日向 議員

〔提案要旨〕

横手清陵学院中学校では、多くの若者が集う次世代へと繋がる地域づくりを目的に『Mirai Plan (ミライプラン)』を提案する。内容は、横手駅周辺の市街地開発事業における「中高生の意見を取り入れた図書館建設について」である。横手清陵学院では、中高一貫校の強みを生かし、中高生へアンケートを実施した。その結果を踏まえて次の通り提案する。

1. デザイナーズライブラリーの建設について

デザイナーズライブラリーというのは、デザイン性・利便性に優れた図書館のことであり、デザイン性に優れた建物ならば、映画のロケ地になったり、横手市のランドマークになると考えるので、図書館のデザインを公募するデザインコンペの開催を提案する。

2. 複合型図書館について

『スタディカフェ』や『学生専用スペース』を備えた図書館があれば、横手駅周辺に若者が集い、活性化するのではないかと考える。また、学校帰りの生徒が電車を待つ時間を利用して学習するため、閉館時間は午後 9 時程度であることが望ましいと考える。具体的には、多賀城市立図書館のような複合型図書館が駅前にあれば、駅前の活性化が期待できると考えるがどうか。